

**滋賀県文化審議会次世代育成部会  
第 13 回(平成 31 年 2 月 13 日開催)会議の概要**

**1 議題**

- (1) 滋賀県文化審議会次世代育成部会長の選任について
- (2) 若手芸術家等の育成・支援について
- (3) アートマネジメント人材育成の取組について
  - ① 県立芸術劇場びわ湖ホール取組について
  - ② 県立文化産業交流会館の取組について
  - ③ アートマネジメント人材養成講座における講師の感想・意見等

**2 主な意見等**

**議題(1) 滋賀県文化審議会次世代育成部会長の選任について**

- 委員の互選により岡田委員を部会長に選任

**議題(2) 若手芸術家等の育成・支援について**

- 資料に基づき県の取組等について説明

**議題(3) アートマネジメント人材育成の取組について**

- 公益財団法人びわ湖芸術文化財団職員および滋賀県立文化産業交流会館が実施したアートマネジメント人材養成講座の講師を務めた滋賀県立大学森川特任准教授より取組内容について説明。

**<アートマネジメント、アートマネージャーについて>**

- 京都府や愛知県にある実演団体、芸術団体、オーケストラ等、アートマネージャーが活躍する場はホールだけではない。
- 指定管理者制度の影響で雇用が短期化するなど、若者が夢を持ってアートマネジメントの世界に入れないのが現状。
- アートマネジメントという言葉を使う場合は、職業的な、専門的なものに特化していただく必要がある。
- アートとエンターテインメントという二つのキーワードがあり、アートとは文化政策であって、エンターテインメントは経済政策である。
- アートマネージャーは自分の生きがい以外に、どう役に立つか、機能しようとしているのか、まちの何を変えようとしているのか、地域の何をどう作りたいのか、アートをどう拡張したいのか、ということが求められてくる。
- アートマネジメントは、まちのことやアートのことをよく知っていないと出来ない。

**<アートのアウトリーチの手法研修(各施設の取組等)について>**

- ホールの職員や文化団体の職員にとって土日は忙しく、人材養成講座を受けられるタイミングが無い。平日夜間の開催や短期集中講座の可能性があると良い。
- アートマネジメント人材養成講座の参加人数が少ない。アートマネージャーそのものが、社会で認められるという状況を作ることが必要。
- 学生等が、アウトリーチを通じて実際に社会の人たちと交流したことは大きな成功体験になったと言える。(文化産業会館と県立大学のアートマネジメント人材養成講座は)

福祉の世界でも通用するような講座。

- 県内の大学や短期大学等の音楽や美術を学んでいる学生達にも裾野を広げると良い。
- 文化産業交流会館と県立大学で何ができるかという観点から考えると、よく頑張っているが、アートマネジメント人材養成というテーマで考えるとまだまだ不足部分が多い。
- アートマネジメント人材養成講座のような講座で人材が育てば、学校等への出前授業等も可能になる。学校では子どもたちを本物に触れさせるということを教育において重視しており、子どもたちにも良い刺激になる。
- 協力するアーティストも食べていけないといけないので、アーティスト側にとっても何が利益なのかを教える必要がある。
- 協力するアーティストには、なぜ協力して欲しいのかという問題意識を明確にしていないと、アーティストにとって不利益になる。

#### <今後のアートマネジメント人材育成等について>

- アートマネジメントとは大変なテーマであり、ジャンルもレベルも幅広いことから、全てを網羅しようとするとは幅広い色んな講座を用意する必要があり、その点では不可能である。
- アートとまちづくりが横断的に繋がっているなか、アートマネージャーをまちづくりというレベルで機能させるのか、アートという高いレベルを目指すのかによっても取組が変わってくる。
- アートや音楽等を使って地域にどう貢献させることができるかという戦略を緻密に練る必要がある。本来なら何十個もプログラムが必要であり、今の取組のレベルでは、やる気があるのか疑問。
- アートマネージャー育成後は、まちなかの会場を使うなどして実践できる場を作る必要がある。
- 県の次世代育成という観点では、クラシック音楽のジャンルに偏りがあると感じる。
- 重点領域や優先順位を設ける必要がある。取捨選択するために重点領域を定めることで、全体像が見え、目的とジャンルが納得いく形で整理される。
- アートを広義に解釈しているなら、何を選択してどう育成していくかについて狙いを精査する必要がある。
- 市民対象のアートマネジメント講座というのは現実的でない。市民対象の講座は市民のアートのリテラシーを育むようなプログラムをやる方が、より効果的。
- 利益とは、まちなかでどう役立ったのかということ。芸術分野の新しい取組として評価軸が必要。

以 上

## アートマネジメントセミナーの実施概要

	滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール	滋賀県立文化産業交流会館
① セミナー名	びわ湖舞台芸術スタッフセミナー	滋賀県立文化産業交流会館・滋賀県立大学合同講座「アートマネジメント人材養成講座」
② 実施主体	<p>滋賀県公立文化施設協議会</p> <p>※公立文化施設が相互の連絡研究によってその機能を十分に発揮し、地方文化の向上に寄与することを目的とする協議会。現在県内24館が加盟。</p> <p>びわ湖ホール館長が会長を務め、びわ湖ホール内に事務局をおいている。</p>	<p>滋賀県立文化産業交流会館</p> <p>協力：滋賀県立大学 地域共生センター</p>
③ 目 的	<p>施設の管理運営や自主文化事業の企画・立案等に関する講習や舞台技術に関する講習を行う。</p> <p>加盟館相互の交流の場を提供する。</p>	<p>「まちづくりとアートマネジメント」をテーマに、「まちづくり」に精力的に取り組まれている滋賀県立大学と連携し、アウトリーチの手法を活用し、コンサートの企画制作および開催までの実践形式で実施し、「まちづくり」の活性化への寄与とそのための人材養成を目的とし開催する。</p>
④ 対象者	<p>滋賀県公立文化施設協議会加盟館他（別紙参照）</p>	<p>【広報先】県内ホール、図書館、公民館、公立文化施設協議会（近畿、東海）、大学、文化協会、NPO、ローカル紙、報道機関、教育委員会</p>
⑤ テーマの決定方法	<p>滋賀県公立文化施設協議会加盟館より選出された委員が、公立文化施設に必要であると考えた内容について分野ごとにセミナーを開催。</p>	<p>アウトリーチの実施を最終目的に、当館、委嘱コーディネーターと滋賀県立大学との間で事業実施内容、スケジュールや会場等の実施に向けた事前調整を行い、講座プログラムを作成し、開催。</p>
⑥ 事業費および財源	<p>加盟館の会費192千円（8千円×24館）</p>	<p>参加料収入、指定管理料、国庫補助金1,473千円</p>

⑦取組実績

滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール（平成30年度）

日程	講座内容	講師	参加数
H30.10.29(月)	まちづくりにおける公共ホールの役割 ～高齢化社会、地域社会、災害時の3つの視点から～	可児市文化創造センター 館長兼劇場総監督 衛紀生 氏	46名 (17館)
	集客力アップのための広報	NPO法人チュラキューブ 代表理事 中川悠 氏	12名 (9館)
	舞台の安全管理	滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール 舞台技術部 部長代理 押谷征仁 氏	14名 (10館)

合計72名  
(14館)

参加対象団体（滋賀県公立文化施設協議会加盟館一覧）

	所在地	施設名
1	高島市	高島市公民館
2	大津市	滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール
3	大津市	ピアザ淡海滋賀県立県民交流センター
4	栗東市	栗東芸術文化会館さくら
5	守山市	守山市市民文化会館（守山市民ホール）
6	野洲市	野洲文化ホール
7	湖南市	湖南市甲西文化ホール
8	甲賀市	忍の里プラザ甲南情報交流センター
9	甲賀市	甲賀市あいこうか市民ホール
10	日野町	日野町町民会館わたむきホール虹
11	東近江市	東近江市立八日市文化芸術会館
12	近江八幡市	近江八幡市立文化会館
13	近江八幡市	文芸セナリヨ
14	愛荘町	ハーティーセンター秦荘
15	豊郷町	豊郷町文化ホール（豊栄のさと）
16	彦根市	ひこね市文化プラザ
17	米原市	滋賀県立文化産業交流会館
18	米原市	米原市民交流プラザ（ルッチプラザ）
19	米原市	伊吹薬草の里文化センター（ジョイホール）
20	長浜市	長浜文化芸術会館
21	長浜市	浅井文化ホール
22	草津市	草津市立草津クレアホール
23	大津市	大津市民会館
24	東近江市	能登川コミュニティセンター

⑦取組実績

滋賀県立文化産業交流会館（平成30年度）

講座日程	取組内容	受講者数
H30.10.6(土)	講座ガイダンス (1) アートマネジメント概論 (2) アート事業と資金計画 講師：衣川絵里子（西宮市フレンテホール副館長）、児玉真（地域創造プロデューサー）、森川稔（滋賀県立大学地域共生センター特任准教授）	10名
H30.10.27(土)	(1) 事業広報 (2) 模擬アウトリーチ (3) 出演アーティストとの意見交換等 講師：阿南一徳（元カザルスホール広報宣伝チーフ）、森川稔（滋賀県立大学地域共生センター特任准教授）	10名
H30.11.10(土)	(1) プログラム検討1 (2) 受け入れ先および出演アーティストとの意見交換と調整 講師：児玉真（地域創造プロデューサー）、森川稔（滋賀県立大学地域共生センター特任准教授）	9名
H30.12.1(土)	プログラム検討2 講師：児玉真（地域創造プロデューサー）、森川稔（滋賀県立大学地域共生センター特任准教授）	15名
H30.12.15(土)	制作・準備・広報等のワークショップ 講師：阿南一徳（元カザルスホール広報宣伝チーフ）、衣川絵里子（西宮市フレンテホール副館長）、森川稔（滋賀県立大学地域共生センター特任准教授）	14名
H31.1.12(土)	会場の確認および事前打合せ 講師：衣川絵里子（西宮市フレンテホール副館長）、森川稔（滋賀県立大学地域共生センター特任准教授）	13名
H31.1.26(土)	アウトリーチ事業の準備および実施 講師：衣川絵里子（西宮市フレンテホール副館長）、森川稔（滋賀県立大学地域共生センター特任准教授）	14名 ※来場者 52名
H31.2.2(土)	アウトリーチ事業の振り返りおよび成果と評価 講師：衣川絵里子（西宮市フレンテホール副館長）、森川稔（滋賀県立大学地域共生センター特任准教授）	11名

※受講者数 合計16名

参加者内訳

施設名	所属部署	人数(人)
(公財) 羽島地域振興公社 不二羽島文化センター		1
滋賀県レイカディア大学	学生	1
滋賀県立大学	学生	3
一般	音楽団体、会社員等	5
(公財) びわ湖芸術文化財団	地域創造部の主に新規採用職員	6

参加者数 16名

# 平成 30 年度びわ湖舞台芸術スタッフセミナー

## 開 催 要 領

### 1 趣 旨

県内の文化施設（文化ホール）に携わる職員を対象として、アートマネジメントおよび舞台技術に関する研修会を開催し、地域における芸術文化活動の拠点としての文化ホールの企画力、効率的な管理運営能力等の向上を図る。

### 2 主 催 滋賀県公立文化施設協議会

### 3 対象者 文化ホール等の関係職員

### 4 内 容

(1) 日 時 平成30年10月29日（月） 10:30～15:00  
(受付10:00～10:30)

(2) 会 場 草津市立草津クレアホール  
草津市野路六丁目 15-11 (TEL: 077-564-5815)

(3) 参加料 滋賀県公立文化施設協議会 加盟施設 無 料  
滋賀県公立文化施設協議会 加盟施設以外 1,000円/人

#### (4) 基調講演 (会場: ホール)

テーマ: まちづくりにおける公共ホールの役割

サブテーマ: 高齢化社会、地域社会、災害時の3つの視点から

内 容: サブテーマの3つの課題を柱として、公共ホールがどのような役割を担えるのか検証し、今後の施設運営に活かす。

講 師: 可児市文化創造センター館長兼劇場総監督 衛 紀生氏

#### (5) 分科会

##### ●分科会1 (会場: リハーサル室)

テーマ: 基調講演をふまえた意見交換会

サブテーマ: 各館の課題と共に学ぶ

内 容: 基調講演の3つの柱を元に各館が直面している課題を事前に集め、ワークショップ形式で意見交換を行います。

講 師: 可児市文化創造センター館長兼劇場総監督 衛 紀生氏

●分科会2（会場：会議室）

テーマ： 集客力アップのための広報

内 容： 各館がどのように広報を行っているか、またどのような課題を抱えているかについて情報交換を行うとともに、課題解決に向けて NPO 法人チュラキューブの中川先生にチラシや SNS の利用方法についてご講義いただきます。

講 師： NPO法人チュラキューブ 代表理事 中川 悠氏

●分科会3（会場：会議室）

テーマ： 舞台の安全管理

内 容： 業者へ舞台業務を委託する場合に、一部のホールでは増員に関する基準があいまいな為に業者側の基準で増員がなされ人件費を増額して請求されたり、貸館における消防署への火器等使用時の申請をホール職員が代行するケースがあったりと、ホールを所有する施設では舞台の安全管理に関し特有の問題を抱えています。この分科会では、事前アンケートで寄せられた舞台の安全管理に関する課題について、押谷氏を中心に話し合う場を設け、解決の方向性を探ります。

講 師： 滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール 舞台技術部 部長代理 押谷 征仁氏

（6）スケジュール

時 間		会 場 等
10：00～	受 付	
10：30～	開 会 （主催者あいさつ）	ホール
10：35～12：00	基調講演	
12：00～13：00	昼食休憩	
13：00～15：00	各分科会	リハーサル室・会議室

**平成 30 年度文化庁「劇場・音楽堂等機能強化推進事業」  
滋賀県次世代創造発信事業「アートマネジメント人材養成講座」  
開催要項**

- |                      |  |
|----------------------|--|
| 1 趣 旨                | 現在広く叫ばれている「まちづくり」を活性化する上で、アートのチカラが大いに期待されており、その効果も実証されています。<br>そこで、今回の講座では、「まちづくりとアートマネジメント」をテーマに、「まちづくり」に精力的に取り組まれている滋賀県立大学と連携し、アウトリーチの手法を活用し、コンサートの企画制作および開催までの実践形式で実施し、「まちづくり」の活性化への寄与とそのための人材養成を目的とし、開催します。  |
| 2 主 催                | 滋賀県立文化産業交流会館   |
| 3 協 力                | 公立大学法人滋賀県立大学 地域共生センター<br>森川 稔特任准教授、秦 憲志主席調査研究員   |
| 4 助 成                | 文化庁文化芸術振興費補助金（劇場・音楽堂等機能強化推進事業）<br>独立行政法人日本芸術文化振興会  |
| 5 公演名                | 平成 30 年度文化庁「劇場・音楽堂等機能強化推進事業」<br>滋賀県次世代創造発信事業「アートマネジメント人材養成講座」  |
| 6 開催日時<br>及び講座<br>内容 | (1)平成 30 年 10 月 6 日(土)<br>講座ガイダンス<br>①アートマネジメント概論<br>②アート事業と資金計画<br><br>(2)平成 30 年 10 月 27 日(土)<br>①事業広報<br>②模擬アウトリーチ<br>③出演アーティストとの意見交換等<br><br>(3)平成 30 年 11 月 10 日(土)<br>①プログラム検討 1<br>②受け入れ先および出演アーティストとの意見交換と調整<br><br>(4)平成 30 年 12 月 1 日(土)<br>プログラム検討 2<br><br>(5)平成 30 年 12 月 15 日(土)<br>制作・準備・広報等のワークショップ<br><br>(6)平成 31 年 1 月 12 日(土)<br>会場の確認および事前打ち合わせ<br><br>(7)平成 31 年 1 月 26 日(土)<br>アウトリーチ事業の準備および実施<br><br>(8)平成 31 年 2 月 2 日(土)<br>アウトリーチ事業の振り返りおよび成果と評価<br><div style="text-align: right;">8 日間</div><br>◆講師陣：阿南 一徳（元カザルスホール広報宣伝チーフ）<br>衣川 絵里子（西宮市フレンテホール 副館長）<br>児玉 真（一般財団法人地域創造プロデューサー）<br>森川 稔（滋賀県立大学地域共生センター特任准教授）<br>◆開講時間：各回 13:10～16:20（第 7 回目を除く） |
| 7 会 場                | 滋賀県立文化産業交流会館（滋賀県米原市下多良 2-137）<br>滋賀県立大学（滋賀県彦根市八坂町 2500）  |



アウトリーチ会場：NPOぽぽハウス 障害児通所施設 はばたき  
(滋賀県彦根市平田町 107-11)

- 8 対 象 18歳以上
- 9 受講料 3,000円
- 10 申込方法 所定の応募用紙によりお申込みください。  
記載内容：①氏名(ふりがな) ②生年月日 ③当講座の受講の有無  
④住所 ⑤電話番号 ⑥E-Mail ⑦応募動機 ⑧所属団体名
- 11 申込締切 平成30年10月2日(火) 必着
- 12 問合せ先 滋賀県立文化産業交流会館 滋賀県米原市下多良2-137  
TEL 0749-52-5111 FAX 0749-52-5119  
<http://www.s-bunsan.jp/>  
E-mail:bunsan@biwako-arts.or.jp